

注 意 報

各関係機関の長 殿

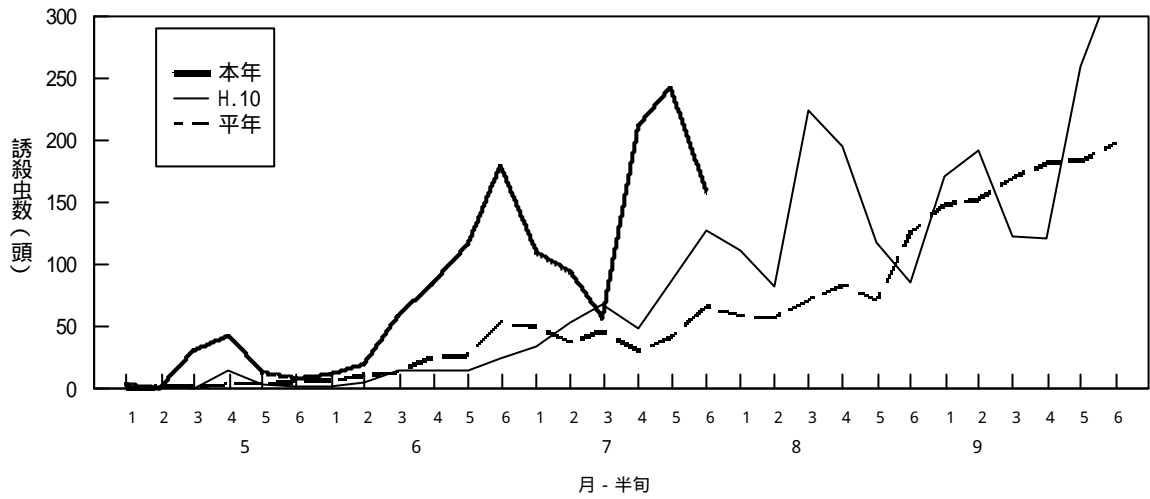
福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

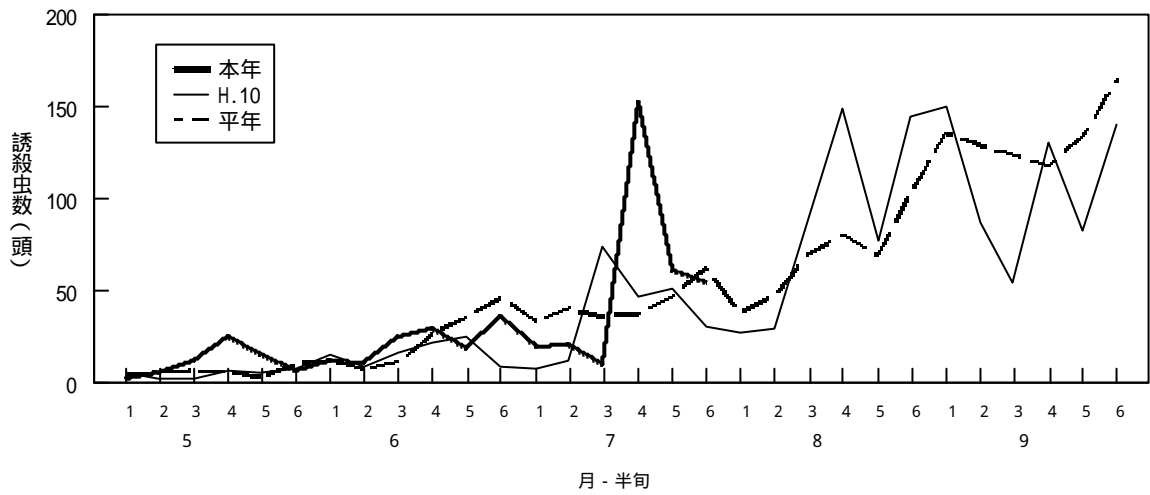
このことについて、病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

平成14年度病害虫発生予察注意報第5号

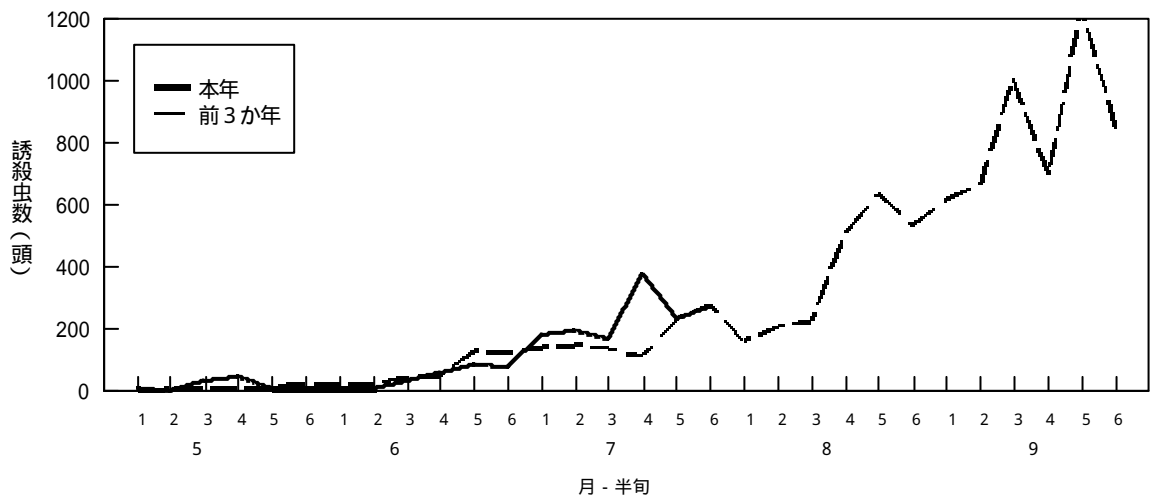
- 1 対象作物 大豆
- 2 病害虫名 ハスモンヨトウ
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生時期 8月上旬～9月
- 5 発生程度 多
- 6 注意報発令の根拠
 - (1) 筑紫野市のフェロモントラップによる7月の誘殺虫数は、872頭（平年：276.9頭、平成10年：418頭）と平年より多く、多発生年の平成10年よりも多い。
また、筑後市及び行橋市においても誘殺虫数が多い。
 - (2) 7月6半旬の110か所での巡回調査結果、白変葉の発生ほ場率は70.9%で、白変葉の発生が早い。
 - (3) 誘殺ピークは7月5半旬で、これより10日目頃の8月上旬に白変葉の発生が増加すると予想される。
 - (4) 気象予報では、8月の平均気温及び降水量は平年並と予想されており、ハスモンヨトウの発生に好適な状況が続き、発生・被害量が増加することが予想される。
- 7 防除上注意すべき事項
 - (1) 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。
 - (2) 白変葉の発生が多い場合は、8月上旬の初期防除を実施する。
 - (3) 薬剤散布は防除効果の高い若齢幼虫期に実施する。
 - (4) 各地域に設置されているフェロモントラップによる誘殺虫数を利用する場合は、誘殺ピークから10日目頃から防除を開始する。
 - (5) 本年の発生は、過去に大発生した平成10年の発生パターンと類似しているため、平成11年3月に農業技術課が発行した「平成10年産大豆ハスモンヨトウの発生、被害と防除対策」の冊子を参照し、防除を徹底する。
 - (6) 無人ヘリコプターで防除を実施する場合は、水稻防除と時期が重なるため日程調整を早く行うこと。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑後市）



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（行橋市）